

私の探鳥地（61）（野鳥だより 171号 2013年3月）

## 天神山緑地界隈（札幌市豊平区）

佐伯 武美

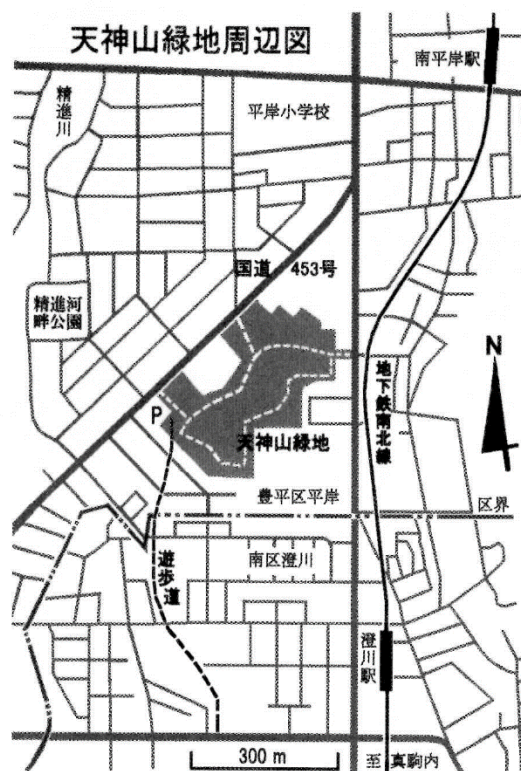
2010年の暮れも押し迫った30日、遥かな国からのお客さんに出会いました。ナキイスカを見るのは初めてのことでした。

出会出会の場所は地下鉄南北線の高架部分とそれと並行して平岸街道が走る、豊平区と南区の境に位置する小さな森です。この森に足を踏み入ると電車の走音や街道の車の騒音から隔離されて気持ちが安らぎます。疎林に囲まれた小高い丘の頂にはアイヌの人たちが築いたチヤシ（城砦・見張り場所）の史跡がありその隣に神社の社があります。こうした環境は人間はもちろん野鳥たちにとっても歓迎する場所になります。

春、桜の芽を目当てにウソが集い、梅の花にコムドリがやってきて老樹となった梅の木に毎年スウィートホームを作ります。萌え出た若葉の間からセンダイムシクイの賑やかな囀りが聞こえ、キビタキやコサメピタキ、オオルリが旅の“羽休め”に立ち寄ります。ペニヒワの小群には記録を取り始めた

1995年以来、4度出会いました。実りの秋、天神山緑地界隈にはナナカマドやコリンゴ、オンコ、マツなどが実をつけます。この緑地沿いの豊平区から南区につづく遊歩道にこうした木々が散在し、野鳥たちに日々の糧を補給しています。

2010年から2011年にかけてイスカが松の木に群れ来るのを何度も目にしました。レンジヤクやアトリが群来してあつというまにナナカマドの実が消えたこともありました。このナナカマドにツグミやマミチヤジナイ、そして去年暮れギンザンマシコがおとずれたのにはびっくりしました。樹下を行き交う人たちを気に留める樵子もなく無心に実を啄んでいました。冬を迎え積もった雪の間から覗かせるオンコの実に、飢えをしのごうと警戒心の強いシメも降り立ちます。



天神山緑地—ときには猛禽類も姿を見せる小さな森の、野鳥たちにとっては大きな安らぎの場—わが家から5分たらずのこの森は私にとっても彼らとの交流の場となるかけがえのない場所です。